

第 4 回静岡市下水道使用料懇話会意見等について

意見、質問等の発表順

意見等の要旨	左に対する対応
<p>コスト縮減の目標値は 12% というのは市全体でわかるが、金額に換算するとどの程度か。</p>	<p>コスト縮減については、これまで、平成 8 年度の標準的な工事と比較して縮減効果を算出していたところですが、技術の進歩などから基準の見直しが必要な時期に来ており、現在新基準を担当課の土木総務課において作成中の状況です。</p> <p>また、市全体の縮減率としての目標は決まっておりますが、具体的な縮減金額の算定基礎となる事業費については、国庫補助金などが確定していませんので、縮減金額を現時点で金額として示すことができないことをご理解ください。</p>
<p>経費回収率が 100% 以上のところがあるが、これは普及率が高いということか。それとも、何か戦略的な要因があるのか。</p>	<p>提示した参考資料中で経費回収率が 100% を超える 11 事業の平均普及率は 96.3% であり、普及率と経費回収率の相関関係は高いと推測されます。</p> <p>また、これらの平均汚水処理原価（維持管理費分）は 59.33 円（静岡市 60.90 円）、平均汚水処理原価（資本費分）は 39.67 円（静岡市 168.17 円）となっており、特に資本費原価が安価なことが、高い経費回収率に結びついていると考えられます。</p> <p>戦略的な要因については、個々の事業を精査してみないと断言できませんが、たとえば大口事業者の負担を一般家庭に比して大きくし、累進度を高くするような使用料体系を設定することにより、使用料収入を確保するような構造の事業もあります。</p>
<p>段階的に使用料一元化を行った場合、新たに発生する事務経費はあるか。もしあるならば、無駄な経費という気がする。</p>	<p>多少は事務経費が発生すると思われませんが、基本的には現行のシステムで対応可能なため、過大な経費にはならないと考えます。</p>
<p>今回事務局が提示した案は、前回の素案に懇話会の意見をかなり反映していると思う。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>